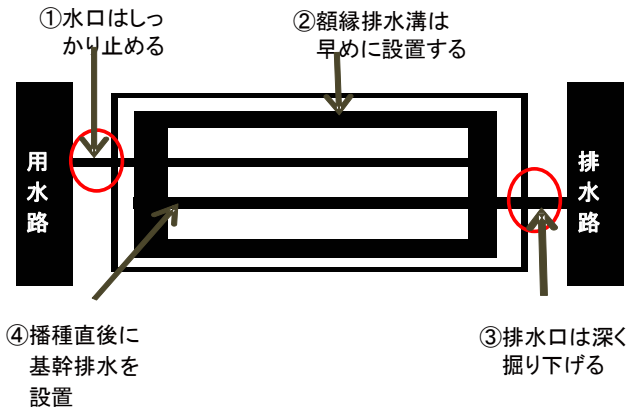


大麦の収量向上には、出芽・苗立ちを確保して、越冬前に茎数をしっかりとることが重要です。

そのため排水対策・土づくり等の基本技術を徹底するとともに、播種は適期内に終わられるよう、計画的に作業を行いましょ。

1 排水対策の徹底 ・稲を刈ったら 即、額縁排水溝を設置

- 稲刈り後速やかに**額縁排水溝を設置**するとともに、確実に排水口へ連結しましょう。
- 砕土率を上げるために、播種前までに十分ほ場を乾かしましょう。



2 土づくり・基肥 ・大麦はpH6.0~6.5が最適

- 石灰質資材は、**10a当たり100kg以上**を耕起前に施用し、**pH6.0~6.5**を確保しましょう。
- 基肥は、
 - ① 分施の場合、**BB555で10a当たり35~40kgを施用**しましょう。
 - ② 肥効調節型基肥の場合、**LP大麦48号で10a当たり45kg程度を基本に**、地力に応じて施用しましょう。

3 適正な播種

播種適期（9月6半旬～10月上旬）に計画的に播種し、遅くても10月中旬までに済ませる！

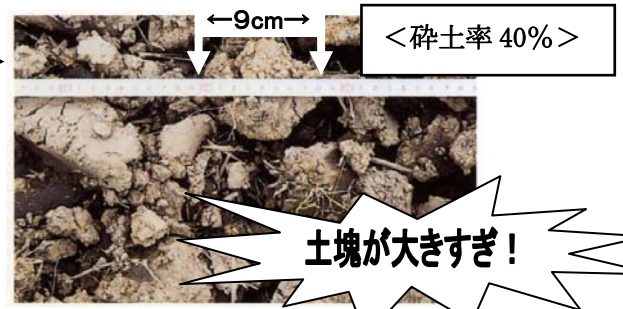
○種子消毒

雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず行って下さい。
「ベンレートT水和剤20」を、乾燥種子重量の0.5%湿粉衣（乾燥種子10kg当たり200mlの水を加え、薬剤50gを均一に混ぜる）する。

○播種作業

- ・播種は、**必ずほ場が乾いた状態**で行い、**耕起・播種・作溝の一連の作業は、1日で完了**させましょう。
- ・トラクターの速度は低速にし、砕土率60%以上を確保しましょう。

砕土率低い（長径2cm以下の割合が少ない）と、
・出芽揃いが悪い。
・除草剤による薬害が発生しやすい。



○播種量の目安

- ・播種時期・播種方法に応じた播種量で目標苗立数を確保しましょう。
- ・ドリル播きでは、深播きにすると出芽揃いが遅れ、分げつの発生率が低下します。**播種の深さは3cm程度に設定**してください。

表 目標苗立数と播種量の目安

播種期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播き	表面散播
9月25~30日	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

雑草でお困りのほ場には、

表 雑草防除（ドリル播き限定）

除草剤名	使用量	使用時期
トレファノサイド粒剤2.5	4~5kg/10a	播種後発芽前
トレファノサイド乳剤	200~300ml/10a	播種後発芽前

使用上の注意

- ・表面散播したほ場には使用しないでください。
- ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控えましょう。

○播種時の排水対策

- ・3~4mに1本の割合で、幅30cm、深さ20cm以上の基幹排水溝を設置しましょう。
- ・また、成畦によってできた溝は、基幹排水溝や額縁排水溝に連結し、雨水が流れるようにしましょう。

注意！ 水稻の収穫・乾燥調製作業や大豆の収穫作業との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう、事前に調整しましょう。